

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和7年1月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年 3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族が気軽に面会にきてくださり、本人、家族、職員とおしゃべりを楽しんだり家庭にいるようなのんびりとした雰囲気を作る工夫をしています。 体操、脳トレ、家事手伝い、外へお出かけしたり気分転換を図り認知症状が悪化しないように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「地域に信頼され貢献できる～」の理念を具現化し、隣の住人と管理者は設立以来の馴染の関係が続き、信頼関係を構築している。事業所は、民間住宅を改修した内装が特徴的で、大きな広間には大画面のテレビやソファが配置され、骨董品や掛け軸などが飾られており、利用者が優雅にくつろげるような環境作りに努めている。入浴については、利用者の要望やタイミングに合わせて柔軟に対応しており、早朝や夜間に入浴する利用者もいる。食事は調理担当の職員が配置できるようになってからは、一日三食、事業所で調理し提供している。食事時間や食事内容は、利用者の要望に合わせて柔軟に対応し、食事を楽しめるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアや何かに悩んだ時に理念をもとに話し合いをしています。	理念の書かれた掲示物を職員の目につきやすいように配置している。また新入職員の入社オリエンテーションの際に理念の説明を行い、理解を促し、共有に努めている。管理者は日々のケアの中で理念に関連した指導を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	となりの方と何気ないおしゃべりをしたり、交流に努めています。近所の方ともし大きな災害があつて避難が必要な場合などお話ししたり、公民館での地域活動や行事などの連絡会に参加しています。12月末に近所の自宅の庭で餅つき大会があつたので参加しました。	事業所隣の住人と管理者は設立以来の馴染の関係が続いており、住人とは協力できることがあればいつでも応じて貰える体制ができている。また、地域での行事は隣近所から声をかけられ、自然に参加を誘われるような交流が生まれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の地域活動等の連絡会で認知症対応型グループホームや認知症の説明に発表をしました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況の報告。	今年度の運営推進会議は、3回の開催に留まっているが、管理者は報告書を作成し、推進会議構成員に対して事業所の運営情報を送付後、構成員と後日直接顔を合わす際や電話等で意見を聴取して運営に反映させている。	年6回の運営推進会議の実施と原則対面での会議開催へ向けて構成員を招集する調整が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催のグループホーム連絡会やケアマネ勉強会に参加し情報交換をおこなっています。	行政担当者とは運営や介護保険法の解釈などについて報告、連絡、相談を常に行っている。また行政主催で町内のグループホームの連絡会に参加し情報交換と情報共有の場を通して連携を密にしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針や定期的に勉強会や外部研修に参加しています。	身体拘束適正化に関する指針の整備と委員会の開催は年4回行われている。安全面の確保のため、身体拘束の三原則に該当する利用者に対して家族の同意、行政への報告連絡を行い身体拘束を実施している。一連の経過を記録し書面に残し適正化に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、重要事項説明にも明記され、職員一人で抱え込まないように研修や動画などを通じ知識や技術向上に努めています。	高齢者虐待防止に関する委員会の開催と指針の整備がなされており、不適切な言葉づかいが見受けられる際には管理者が現場で教育指導している。また勉強会への参加を通して虐待防止への意識を高める工夫を日々行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を勉強したり、外部研修に参加		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に家族様に説明を行い契約時にも説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日々のかかわりの中で聞いています。家族からの意見は来所時や電話などで聞いています。	家族等の面会は原則制限無しで対応している。また家族が利用者を外出させたい、外泊したい、年中行事等へ参加させたいという要望も基本的に受け入れている。またその際に予定通りいかなかったケースも想定し、帰所する場合の受け入れも予想しながら対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は個人面談、業務の中にも随時間聞いています。	管理者は日々の業務の中で職員の意見に耳を傾けたり、個別に聞き取りを行うなど工夫をしている。管理者は職員から意見を吸い上げて外国人職員の受け入れ指導を強化するため勤務時間の変更を提案、職員の配置を厚くして十分な指導に活かせることを実践して運営に反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績、能力に応じて評価し昇給しています。	職員が働きながら資格取得することを支援しており、無資格から介護福祉士取得者までの実績を出している。また希望休は1人月に2日申請が可能というルールを職員同士で協力し実践している。ハラスメント対策も整備しており、長期に働き続けられる環境づくりに注力している。	夜勤専属職員の健康診断2回が1人実施されていないため、健康管理、就業管理のための工夫と職員への周知理解を含めて見直していくことが望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でも動画や参考資料や外部研修を通して勉強会をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所の職員と活動を通じて交流を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族に施設見学をしていただき、また度々ご本人に会いに行き挨拶をかわし不安を取り除くようにしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に本人や家族に施設見学をして頂きまたは連絡を取り合い不安や要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を把握して生活できるように職員と一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はゆったり時間をともに過ごしコミュニケーションが取れ、信頼関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな些細な事でも家族に連絡している。(体調面や生活状況など) 利用者様とご家族様でお出かけをして本人と家族の時間を大切にす支援を心がけています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問も多く、施設周辺を散歩した際には近所との交流もあります。	家族の面会は平均的に月に2回程度で、頻度の多い家族は週に1回のペースで面会のため来所している。ある利用者の入居前の習慣であった神社への参拝やドライブを定期的におこない、馴染みの場所への訪問を重視し支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の席の配置、トラブル回避のため距離の工夫を行いいい関係で過ごせるように対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報共有を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は、入居者様からは普段の会話の中で聞き、困難な場合は動作や表情で汲み取れるように観察し支援しています。	利用者と家族の意向は入居時に情報収集を行い、日常の介護場面やコミュニケーション場面でやりとりしている言動から、一人一人の意向をくみ取れるよう観察をおこなっている。職員は、意思疎通でも聞き方、言葉の選び方で意向を表現できるケースがあるため注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の意向を把握し安心して生活できるように職員と一緒に検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム、心身の状態の変化を把握し職員と共に共有し支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意見、要望を聞き職員と生活のようす、状態を確認し合い介護計画を作成しています。	計画作成担当者は職員から日々の利用者の様子について介護計画の短期目標にそって聞き取り、モニタリングを行っている。半年、1年毎に見直しの機会を設け、状態の変化がある際は適宜見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活のようすや気づきは個別記録に記入し情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、ほかの事業所からアドバイスを受けながらニーズに合わせて対応できるように支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり認知症カフェに参加したり交流に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6名は訪問診療を契約されているので個別で2週に1回訪問にきます。状態報告し助言を頂いています。3名の入居者様馴染みのかかりつけ医を継続しているので受診の結果は家族から報告を頂いています。	馴染みのかかりつけ医を受診している利用者が3名、訪問診療を利用している利用者は6名おり、通院は基本家族対応で、その都度、事業所から口頭と文書にて情報提供を行い、主治医と連携を図っている。また、オンラインツールを活用してリアルタイムで主治医と情報共有しており、迅速で適切な医療支援に繋がられるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に2回程看護師の出勤時、相談・助言を受け必要であれば受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に何度か行き医師や看護師から症状や治療内容を家族と確認し退院に向け情報の共有をしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応の指針の説明、理解を頂いています。	重度化や終末期に向けた支援については、契約時に利用者、家族へ文書を交付して説明し同意を得て、今年度、3名の利用者の看取りを行った。入居後、利用者が重度化した場合は、利用者、家族、主治医、専門職等を交えて話し合い、その内容を全職員で共有し支援に臨んでいる。主治医が入居継続が困難と判断した場合は、他の医療機関や施設等への紹介もしている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルがあり、急変や事故発生時には対応できる体制を整えています。	急変時マニュアルを整備し、職員は基本的な対応方法を学習しており、随時、主治医、看護師と連携できる体制を整えている。スタッフルームには、急変時対応のフローチャートが掲示されており、いつでも初期対応が確認できる。事故発生時は、ミーティングを開き原因及び対策を検討し報告書を作成後、全職員で回覧し情報共有を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	昼夜想定自主避難訓練を実施しています。感染の予防や蔓延の防止の取り組みも行っています。3日分の食料も備蓄しています。	年2回、昼夜を想定した災害訓練を実施している。食料の備蓄は3日分あり、備蓄リストをもとに管理している。災害、感染症についての業務継続計画(BCP)の作成と研修、訓練は実施しており、今後は計画の見直しを予定している。感染症及びまん延防止のための取り組みとしては、マニュアルと指針を整備し、年2回、委員会の開催と研修を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様への話し方や態度に十分に配慮しながら対応しています。	利用者一人ひとりの人格や尊厳を日々大切にしながら、支援を行っている。個人情報の取扱いについては、契約時に個人情報保護の方針や利用目的を文書で説明し同意を得ている。玄関には、個人情報の取り扱いに関する文書がファイリングされており、誰でも閲覧できるようにしている。年1回、個人情報の取り扱いに関する勉強会を開催し意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちをうまく伝えきれない方もいるので十分とはいえませんが、本人にわかりやすい言葉で話、自己決定しやすいように対応するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本あるのですが、一人ひとりのペースがあるので気持ちに寄り添って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時はおしゃれ着をしたり髪の毛の長い方は綺麗に編み込みしたりしています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや配膳や下膳のお手伝いに参加しています。	令和7年2月に調理担当の職員が配置できるようになり、一日三食、事業所で調理し提供している。食事時間や食事内容は、利用者の要望に合わせて柔軟に対応し、食事を楽しめるように配慮している。昼食時と夕食時は、職員と利用者が同じ食事を楽しみ、食器拭き等の後片付けもそれぞれの力に合わせて一緒に行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キッチン担当の職員の退職や人手不足により昼と夕は宅配弁当で対応しています。栄養バランスの工夫をし温かい		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で困難な方は職員が口の中の残食を取り除いたりして本人に合わせた口腔ケアを行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄誘導、声掛けを行っています。	トイレでの排泄支援を基本として、希望する利用者には、居室にポータブルトイレを設置し支援している。ケア記録を活用し、主治医と連携しながら、利用者の排泄パターンに合わせた支援を行っている。集団体操や階段の昇り降りなど、日常生活の中で適度に体を動かす機会を作り、排泄リズムを整えながら、自立した排泄動作の獲得と維持ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や適度な運動、マッサージを行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、午前中に入浴を行い本人が入りたくない場合は時間を変えたりスタッフを変え対応しています。	週3回、午前中に入浴を基本としているが、利用者の要望やタイミングに合わせて柔軟に対応しており、早朝や夜間に入浴する利用者もいる。入浴支援は同性介助を基本とし、難しい場合は利用者に承諾を得た上で対応している。入浴時は、お気に入りのコンディショナーを使用したり、好きな音楽をかけたり利用者一人ひとりが入浴を楽しめるような支援を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて自由に休息できるように対応しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ひとりひとりのお薬内容はいつでも確認できるように薬情をファイリングしています。服薬時に職員二人でダブルチェックし服薬後の空袋はセットに戻して全員が服薬済みか再度チェックしています。	服薬マニュアルと薬事情報はスタッフルームに完備しており、いつでも確認できるようにしている。処方薬は利用者ごとに用意されたクリアボックスに保管し、管理者と看護師とで管理している。与薬時は職員で二重チェックを行い、服薬後の空袋はケースに戻して、全職員で飲み忘れがないか確認できる体制作りがされている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、塗り絵が好きな方、カラオケが好きな方など個々の楽しみを職員と一緒に楽しんで過ごしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望があれば散歩やドライブにでかけています。	近隣の散歩や買い物、定期的な神社参拝への同行など、利用者の希望に応じて外出支援を行っている。シーミー(清明祭)への参加を希望する利用者に対して、職員と家族が協力して支援したこともある。外出が難しい場合でも、戸外へ出て庭を散歩するなど、気分転換が図れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や本人の希望があればいつでも話せる機会を設けています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員と一緒にソファでテレビを見ながら本人がくつろげるように心がけています。	民間住宅を改修した内装で、2階の大きな広間には大画面のテレビやソファが配置され、骨董品や掛け軸などが飾られており、利用者が優雅に寛げるような環境作りに努めている。大きな窓が複数あり、日中は多くの自然光を取り入れることができる。眩しいと感じる利用者に対しては、明るさを抑えたスペースを設け、落ち着いて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンで職員とお茶を飲みながらくつろいだり外の景色を眺めゆっくり過ごせる空間。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や花の写真をもってきて飾ったり家族の手紙を壁に貼ったりと本人や家族が好きな様に工夫しています。	各居室には、ベッドやタンス、クローゼットが備え付けられている。テレビを持ち込んだり、家族の写真や手紙が飾られている居室があり、利用者が馴染みのものや好みのものを取り入れ、居心地よく過ごせるよう支援している。また、居室ごとに壁紙や間取りを変えており、利用者にとって愛着が湧きやすい空間になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりを設置し、掴まって立ちやすく歩いて移動しやすいように工夫しています。		